

令和6年度	小規模多機能型居宅介護「サービス評価」	総括表
-------	---------------------	-----

法人名	有限会社 フルハウスカンパニー	代表者	助川 覚	法人・ 事業所 の特徴	平成13年に訪問介護からスタートした。その後、デイサービス、居宅介護支援、グループホーム、有料老人ホームと展開し、子ども食堂で子ども事業も展開した。令和2年には関連会社で就労支援、相談支援事業をスタートさせ障害者事業も展開。令和3年に当該施設をスタートさせ、令和4年には障害者の生活介護を併設させ、共生型を展開している。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護ひまわり	管理者	助川 典子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	1人	1人	1人	人	1人	4人	人	12人

項目	前回 (R5) の改善計画＝R6にやること	前回 (R6) の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回 (R6) の改善計画＝R7にやること
A. 事業所自己評価の確認	利用者様一人ひとりの生活環境について、密に関われるように利用者担当制検討をしていく。以前の暮らし方も含め、レクや普段の会話の中で拾い出し、ケアプランに反映できるように取り組む。	毎月、利用者様の声や課題等をまとめ、MT等で情報共有する事ができた。利用者様の担当制については、現場での活用には至らない。毎月の利用者様の情報をまとめる事に対するの担当までとしている。そこで汲み取った利用者の気持ちをケアマネと共有し、プランに反映している。	・利用者様が遠慮してしまっていると思う。もっと遠慮せずに話してもらえるようにしてあげたい。	利用者様一人ひとりに合った個別ケアを考え実施する。それをMT等で定期的に評価・情報共有してサービスの質の向上を図る。 地域との関わりをより深める。
B. 事業所のしつらえ・環境	生活の場としてのくつろげる空間づくり、季節感が分かるような飾りつけを今後も工夫して行っていく。また、感染対策で不便になっている部分や工夫についても、今後検討していく。	季節ごとに壁面製作をして、玄関には普段のご様子など写真掲載したり、利用者様が製作した物を飾ったりと、普段の施設での取り組みを地域の方に伝わるように取り組んだ。感染対策では、研修を行い適切に対応できるようにしている。	・高齢者と障害者が年齢を超えて会話が出来ているのが良い。 ・障害者の相談支援事業の担当者も障害者が高齢になるのにあたり介護保険の知識が必要。	高齢者と障害者が一緒にできるレクやコミュニケーション等ができる環境を整え、安全で活気のある生活が送れるように工夫をする。
C. 事業所と地域のかかわり	月1回の内覧会やひまわり通信を通じて、ひまわりの存在を発信して地域との良好な関係性を築いていく。運営推進会議の開催や地域イベントを通じて、時にはボランティア活動の協力も得ながら関わっていく。	毎月内覧会実施し、地域の方々への理解と親睦を深めている。 町内会の駅伝大会に利用者と職員が参加し、不参加の方も応援をした。また、不定期だが地域のボランティアの方が催し物を披露し、利用者の楽しみの一つになっている。	・他事業所との交流会・研修会等を実施していきたい。	他事業所との交流会と研修会等を定期的に実施する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の困りごと解決のために、当施設が相談しやすい立場でありたい。地域包括支援センターや民生員との連携など、地域でのお手伝いを実施していきたい。	桜の季節に花見ドライブを行うことができた。 施設併設の障害者施設との合同レクで納涼祭を実施して地域参加を促すことができた。 また、施設内のひまわりカフェに利用者様を案内してくつろげる時間を提供できた。	・利用者が買い物する機会があり、見ることが出来て良かった。 ・内覧会はどうのような方が来る？ ・ひまわりカフェ(就労Bカラフル)を見学・コーヒー試飲をして、「いい雰囲気」。	・利用者様を定期的にひまわりカフェへお連れしてお茶をしながら雰囲気を楽しんでもらう。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の困りごとについて、なかなか意見が出にくい環境であるため、まずは、当施設での困りごとや地域との連携の事例を紹介できる機会を作っていく。	地域の方との交流で特に関心を持たれていた事は①外国人労働者について、②障害者と高齢者の関わり。 上記の内容も内覧会にて地域の方へ紹介している。	・外国人労働者を受け入れて問題点はあるか？ ・外国人のスタッフは基本的に忠実で利用者様からも親切だと喜ばれている。	外国人雇用を検討したい事業所への現場レベルの情報提供を運営推進会議以外にも市内の交流会等に積極的に参加して地域全体で問題の解決に助力する。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加できなかったが、年々防災や感染予防に対する意識は高まっていると思われる。機会があれば、地域の防災訓練に参加していきたい。	地域の防災訓練は参加していない。事業所の避難訓練は半年に1回実施し、避難経路・連絡網の確認をした。避難は時間内に問題なく完了出来ている。	特になし。	避難訓練に参加できなかった職員も常に誰でも避難経路や手順を把握できる環境を整える。